

# 最上川舟運と清川港

## 最上川の水駅として発達した清川

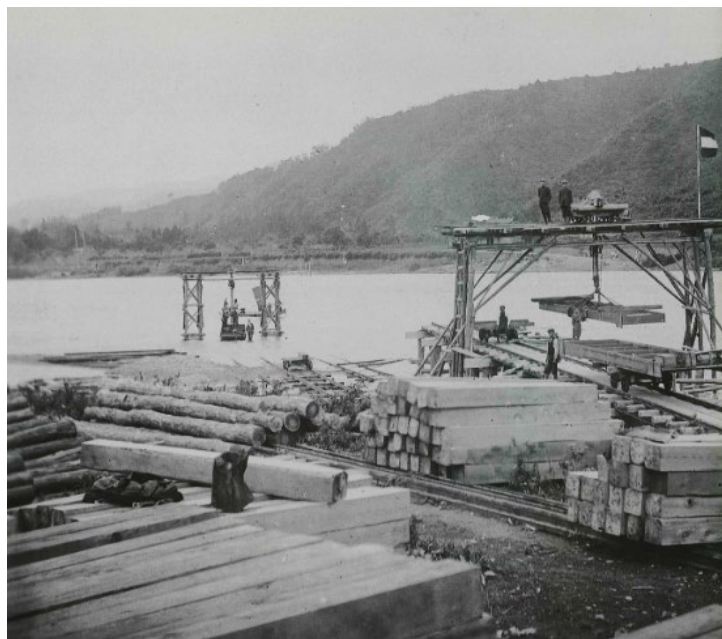
# 清川歴史公園かわら版



定期船 最進丸 1908(明治 41)年ごろ

一九〇二(明治三  
五)年十一月酒田水運  
会社が両羽丸という  
蒸気船を清川から本  
合海間に定期運航を  
始めました。後に最進  
丸という発動機船に  
変わりました。(写真)  
汽船が港に着くと、  
各旅館ではにぎやか  
に客を呼び、宿に泊ま  
る人や人力車で鶴岡・  
酒田に行く人で清川  
港は繁盛を極めたと言  
われています。

その後、一九一四  
(大正三)年の陸羽西  
線の開通とともに水  
路から陸路へ人々や  
物流が動き、清川港の  
役目は薄れて、定期船  
は廃止されました。  
清川港全盛期は船  
数七十七隻、船乗り一  
八四人、人力車一〇八  
台でにぎわっていま  
したが、鉄道開通後は  
船数四十三隻、船乗り  
八十六人、人力車数四  
台と激減しました。



清川港から木材の積み出し 1907(明治 40)年ごろ

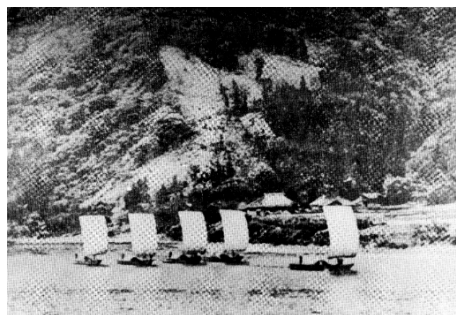
最上地方から筏(いかだ)に組んで最上川を下って運  
ばれてくる木材は、いったん清川港に集められ、船で酒  
田まで運ばれました。  
当時の清川の職業形態は、舟業七十二、農業五十六、  
旅館十三、雑菓子業十三、大工七、新炭商五、豆腐屋四、  
荒物商三、木挽三、穀物商二、通運二、桶屋一、鍛冶一、  
算師一、塗師一、湯屋一、売薬業一、その他、計一八八  
戸とされており、様々な産業でにぎわっていたことがわ  
かります。記録は一八七六(明治九)年。

発行所  
清川歴史公園  
管理運営委員会  
連絡先  
庄内町商工観光課  
立川地域観光振興係

清川歴史公園管理運営委員会では、  
食堂・売店・ガイドなどに協力いた  
だける方、一緒に地域を盛り上げてい  
ただける方を募集しています。役場商  
工観光課までぜひお声がけください。  
連絡先 〇二三四五六・二二二三

【お知らせ】  
清河八郎記念館冬季休館  
(休館期間：12月～2月)  
資料の一部は、亀ノ尾の里  
資料館(余目第四公民館内)  
でご覧いただけます。

## 艀船と小鵜飼舟



最上川を上る小鵜飼舟 1945(昭和 20)年ごろ

古くから、浅く平らな形  
の艀船(ひらたふね)と呼  
ばれる船が主に川船とし  
て使用されていましたが、  
後に小鵜飼舟(こうかいふ  
ね)と呼ばれる小型の船が  
多く使われるようになり  
ました。

小鵜飼舟は艀船よりも  
かなり小型になり、三人乗  
りで積み荷も一トン半程  
度でした。小型で軽い上、  
へさが尖り、流線型をし  
ているためスピードもあ  
り、重宝がられました。写  
真は風を受けて川を上る  
小鵜飼舟です。

復元される川口番所に、  
艀船と小鵜飼舟の模型が  
展示される予定です。

※本頁掲載の写真はすべて「写真でみる清川の歴史」より

# 清川関所跡は日本遺産の構成文化財です



## 現在・過去・未来を巡る 『生まれかわりの旅』

出羽三山の雄大な自然を背景に生まれた羽黒修験道では、羽黒山は人々の現世利益を叶える現在の山、月山はその高く秀麗な姿から祖霊が鎮まる過去の山、湯殿山はお湯の湧き出る赤色の巨岩が新しい生命の誕生を表す未来の山と言われます。

三山を巡ることは、江戸時代に庶民の間で「生まれかわりの旅」として広がり、地域の

人々に支えられながら、日本古来の、山の自然と信仰の結び付きを今に伝えています。

かつて最上川舟運を利用した参拝者は、清川関所から御諸皇子神社を拝して、鉢子集落から羽黒古道を経て羽黒山へ向かいました。

現在、鉢子集落から羽黒山に登る羽黒古道は地元住民の手により復活し、数多くの史跡を見ながら、庄内平野を眺めつつ、杉林やブナの木立ちの中を羽黒山山頂まで歩くことができます。雪が消え、緑豊かな季節になったら、清川から「かつての行者が通った道」を迎けて、日本遺産を感じる旅に出かけてみませんか。



出羽三山の御湯・皇子皇子伝説が語る羽黒山参道だった古道が、地元住民の手により復活。数多くの史跡を見ながら、庄内平野を眺めつつ、杉林やブナの木立ちの中を羽黒山山頂まで歩くことができます。

- 鉢子口～羽黒山山頂 所要時間 片道約1時間30分
- ガイド (羽黒修験道を守る会) ガイド料、4,000円
- 問い合わせ 観光課立山係(電話) 0234-96-2213 TEL.0234-96-2213

パンフレット:トレッキング in 庄内町 より

### 【街歩き①】御諸皇子神社

源義経が武蔵坊弁慶ら一行を従えて旅の一夜を明かした神社とされており、義経ゆかりの品や大絵馬があります。義経記には「一一八六(文治三)年三月三日源義経一行が、この神社で一夜を明かし、道中安全の祈願をし、ここから最上川を舟で上った。」と記載されています。

上記にあるとおりの清川関所から羽黒山に向かう際に拝されたと言われています。

北楯大堰を渡ってすぐの入口に立つ二体の金剛力士像(那羅延金剛力士、密迹金剛力士)は庄内町の指定文化財になっています。境内にある稻荷神社も桃山時代の建築で重要な文化財となっています。

毎年八月十八日の例大祭では、獅子神楽舞が奉納され、山車が練り歩きます。

写真 御諸皇子神社社殿(左) 大絵馬(右)



### 【街歩き②】歓喜寺

創建は一五七九(天正七)年で歴史は古く、清河八郎生家である齋藤治兵衛家の菩提寺で、境内には八郎と妻お蓮の墓、戊辰戦争庄内藩の忠臣・勇士の墓、農兵の墓、天保大飢饉義民の墓などがあります。他にも雷山の句碑、寺子屋師匠の碑、多数の歌碑や様々な文献を保有しており、清川の歴史と文化を語る資料に富んでいます。

寺宝として、恵信僧都(源信)筆と伝えられる釈迦三尊の仏画、山岡鉄舟筆山号額「金華山」、高橋泥舟の書、市原巴潭筆十二天像屏風(庄内町指定文化財)、丸木位里画伯の障壁画(襖絵)などを所蔵しています。

※一般公開はしていません。庄内平和観音百八霊場第四十五番札所。



庄内平和観音百八霊場第四十五番札所の碑

歓喜寺入口

歓喜寺